



# みなみりょく！

## Minami Ryoku

2022  
Vol.3  
SUMMER



### Rehabilitation 1 当院で行われている 心臓リハビリテーションの集団リハビリの紹介

当院の循環器科または心臓血管外科にてご入院中の患者さんを対象に『集団リハビリ』を実施しています。集団リハビリ対象の患者さんと理学療法士あるいは患者さん同士で「再発予防」を目標に病気について学びながら治療を実施しています。

足の筋力トレーニングや有酸素運動(自転車)をしながら、退院後の運動習慣や生活習慣についてお話ししながら運動を行います。



集団心リハ室風景

運動の風景

### Rehabilitation 2 自宅でもできる!! 心不全治療中の方への運動について

運動の詳細は動画をチェック!

体操を含めた運動は、心不全患者の体力やQOL(生活の質)の向上だけでなく、心不全等による再入院の可能性を減らすため、心不全の重要な治療の一つに位置づけられています。(2021年改訂版心血管疾患におけるリハビリテーションに関するガイドラインを参考)



スクワット

踵上げ

膝伸ばし

**筋力トレーニング**(各10-15回を1~3セット 週3日程度) **ウォーキング**(1日合計30分以上 週3日以上)

運動の負荷量は、足のだるさや息切れを目安として：『楽である』～『ややきつい』程度にしましょう！

**【最後に】これらの運動は体調に合わせて行い、無理は禁物です！！**

**医師と相談しながら運動を行きましょう！**



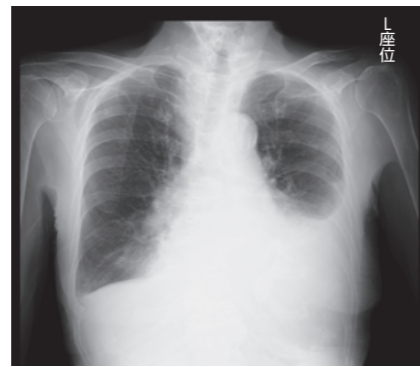
# 01 心不全

循環器疾患センター部長 長谷川 新治  
(はせがわ しんじ)

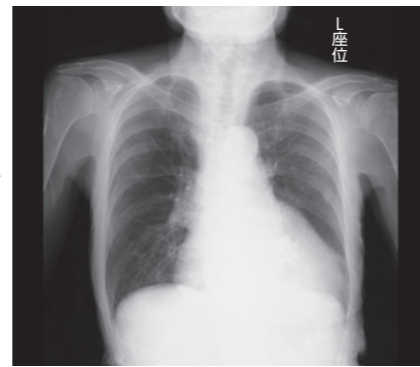


## 心臓は血液を全身に送るポンプ

ポンプ機能が落ちて血液を十分に送れなくなる状態を心不全と呼んでいます。心不全では血液が肺や全身の静脈に滞って、たまるため呼吸が苦しくなったり、足がむくんだりします。循環器科では心不全かどうかを診断し、原因を検索して、適切な治療を行います。さらに患者さまに心不全という病態を理解していただき、自己管理できるように指導させていただきます。



心不全のため肺に水が溜まっている状態(肺うっ血という)呼吸困難で救急搬送。



治療によって肺にたまっていた水が消失しています。呼吸も楽になりました。



## 特集 循環器科 Cardiology 心臓の病気

# 02 不整脈

循環器疾患研究室長 柏瀬 一路  
(かしわせ かずのり)



## いろいろなツールを使用して診断・治療を行っています！

不整脈には、いろいろな種類があり、それぞれに対して必要な治療を行っています。

### カテーテルアブレーション

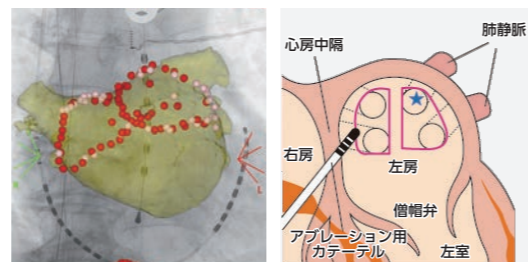
心房細動や脈が早くなる不整脈に対して、カテーテルで不整脈の原因となっている場所を探し、電気的に焼灼することで不整脈を出なくする治療です。

### ペースメーカー

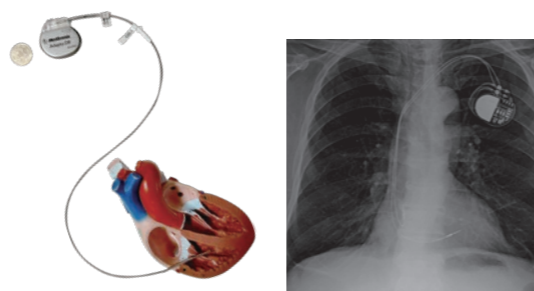
脈が遅くなる不整脈に対して、心房や心室にリード線を入れて、電気刺激を行ない、適正な脈拍に保つようにする装置を植込みます。

### 植込み型除細動器

心室頻拍・心室細動という突然死の原因となるような危険な不整脈には、AEDのような電気ショックを体内で行ってくれる植込み型除細動器という装置を植込みます。



**心房細動に対するカテーテルアブレーション**  
カテーテルを左心房に挿入し、肺静脈の出口を円を描くように焼灼して、肺静脈から出ている異常な電気信号が左心房に入ってこないようにすることで、心房細動を出にくくする治療です。



**ペースメーカー**  
局所麻酔の手術で、心房や心室にリード線を挿入し、鎖骨の下あたりに本体を植込みます。心房や心室が動いていないときには、電気刺激を送って、脈が遅くならないように保ちます。

# 03 下肢閉塞性動脈硬化症

[足の狭心症・心筋梗塞]  
循環器科医師 山戸 将司  
(やまと まさし)



## 足の動脈硬化

「動脈硬化」という言葉を耳にされたことがあるかと思います。有名な病気として、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞など、命に関わる病気がありますが、これらは多くの場合、心臓や脳を養う血管の動脈硬化を背景として発症します。そして、この動脈硬化が足の血管に強く起こると、足の血流を悪化させることがあり、この状態を下肢閉塞性動脈硬化症といいます。無症状のこともあります。散歩をするなど足を使うとふくらはぎが怠くなる・痛くなるといった症状や、より進行している場合には、じっとしていても足先が痛い・冷たい・血色が悪い、さらには皮膚の傷から皮下組織が露出したり黒く変色したりするなどの症状があります。

下肢動脈造影CT

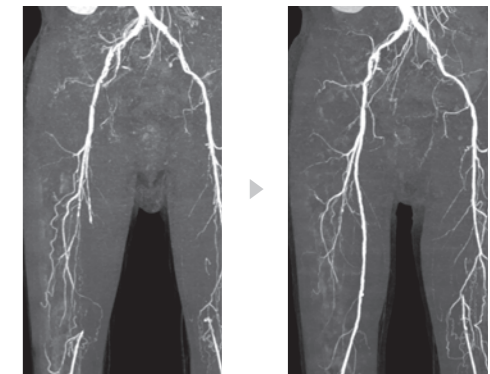


図1 (治療前)  
右浅大腿動脈が近位部で狭窄し、中間部で閉塞しています。

図2 (治療後)  
右浅大腿動脈の狭窄・閉塞がなくなり良好な血流を認めています。

## 血行再建を含めた治療

治療の大前提としては、動脈硬化を進展させるリスクファクターのコントロールが重要となり、具体的には高血圧、糖尿病、脂質異常症、喫煙などに対する治療や禁煙などです。その上で、特に上記のような症状がある場合には、足の血流自体を改善させる治療、いわゆる血行再建を行うこともあります。当科ではカテーテルを用いた血行再建も行っております。状態や進行具合によっては複数回の治療を要することもあります。一般に血流改善効果は高く、足の痛みの症状がなくなる、血行不良のためにできていた足の傷が治るなどといった治療効果が期待できます。

# 04 虚血性心疾患

[心筋梗塞・狭心症]  
循環器科医師 吉村 貴裕  
(よしむら たかひろ)



## 24時間365日受け入れ可能な体制を目指して

心臓の筋肉(心筋)に血液を供給する血管を「冠動脈」といいます。加齢や喫煙、生活習慣病の影響で冠動脈の動脈硬化が進行し、血管が狭窄・閉塞することにより心筋に十分な血液が供給されず虚血状態に陥る病気を「虚血性心疾患」といいます。虚血性心疾患には血管が閉塞し心筋が壊死に陥る「心筋梗塞」と、血管が徐々に狭窄し虚血状態を呈しているものの心筋壊死には至っていない状態である「狭心症」が含まれます。虚血性心疾患の症状は「胸の圧迫感」「胸の絞扼感(胸が締め付けられる)」といった訴えが典型的ですが、「酷い肩こり」や「左腕の痛み」、「心窩部痛」、「あごの痛み」として出現することがあります。なかでも急に症状が出現し持続している心筋梗塞、または最近増悪傾向にある狭心症を「急性冠症候群(急性心筋梗塞・不安定狭心症)」と呼び、命に関わる危険があるため早急なカテーテル治療が重要です。

当院は24時間365日体制で急性冠症候群の患者さんの迅速な受け入れを可能にするため、近隣診療所の先生方や救急隊と当院循環器科医師がいつでも直接電話で相談出来る「ハートコール」を開設しています。

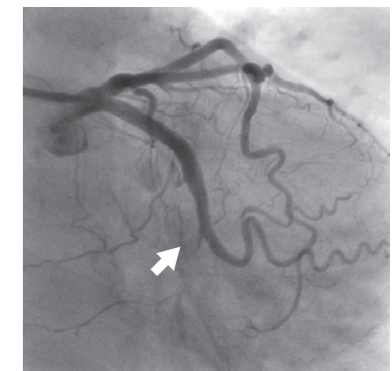


図1 急性心筋梗塞にて救急搬送  
左冠動脈の閉塞あり。

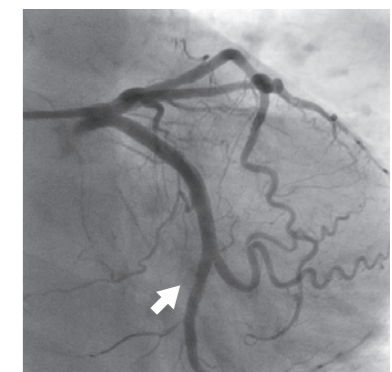


図2 カテーテル治療にて再灌流に成功。

# 心臓血管外科 大動脈瘤

心臓や血管の病気には、命に関わる大変怖いものがあります。静かに進行する場合もあれば突然死につながる事もあります。専門医による確かな診断と治療が何よりも大切です。

心臓血管外科では大動脈瘤、弁膜症、狭心症、動脈閉塞疾患など、特に手術でしか治せない重症な患者さんを取り扱います。より高齢の患者さんが増加しており、体に負担の少ない最適な治療を提案します。

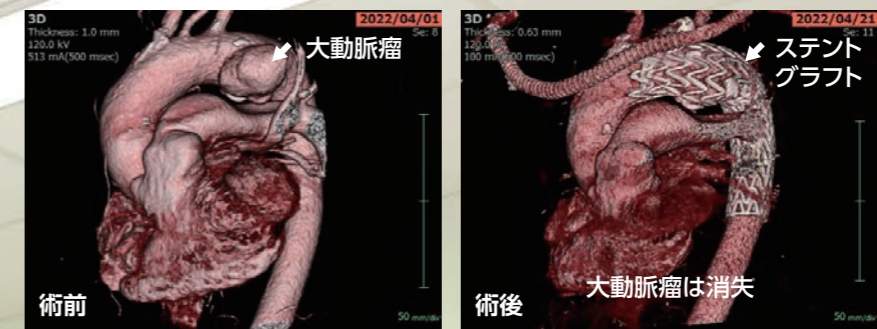
手術は決して怖くありません。「なんともないから」と放置する方が危険です！

## 大動脈瘤は「時限爆弾」！

大動脈瘤は大動脈が風船状に膨らむ病気です。大きくなると破裂する危険がある病気です。破裂しなければ全く症状はありません。あたかも体の中に時限爆弾が入っている様なものです。また大動脈瘤に似た病気で大動脈解離があります。これは血管の内側の壁が傷つき、外側の壁がはがれて破裂する病気です。急性大動脈解離の場合は突然死のリスクが非常に高いです。大動脈瘤には残念ながら特効薬がありません。普段の健康管理と、専門医の定期診察が大切です。最終的には外科手術が必要となる場合があります。

当院は大動脈瘤に対する外科治療を得意としています。高齢者にはできるだけ負担の少ない手術を行います。脚のつけ根を小さく切開して行うステントグラフト治療が有効です。

大動脈瘤のステントグラフト治療



Department of pharmacy

# 薬剤部

## 薬剤師の役割



Department of pharmacy

薬剤師の役割について

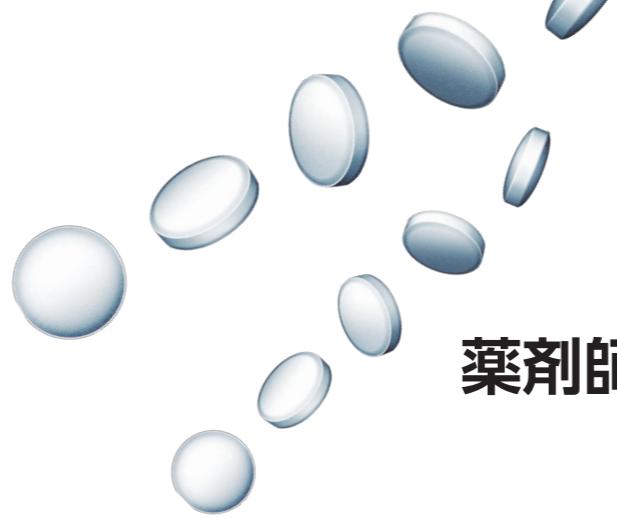
## 一般病棟／CCU・ICU



Department of pharmacy

患者支援センターでは

## 薬剤師がお薬の確認をいたします!



一般病棟での薬剤師

### 「薬剤師が常駐」

病棟での薬剤師の仕事は、患者支援センターで患者さんから伺った常用薬の内容、入院中に使用のお薬との相互作用、アレルギーがあるため使えないお薬などを確認しています。確認した内容は医師等に伝えています。また、入院中に服用されるお薬や、飲み方について、お薬説明書を用いてわかりやすく患者さんやご家族に説明するとともに、副作用についても確認しています。退院される際には、ご自宅等でお薬についてご注意いただきたい内容についてご説明しています。また、医師等の他の医療職からの薬物治療の相談にも対応しており、患者さんに提供する医療の質が高くなるよう日々勤めています。

CCU・ICUでの薬剤師

### 「高度な薬物治療への参画」

集中治療室では、患者さんに多種類の注射薬を精密に調整しながら治療することが多いので、薬剤師の仕事は、一般病棟での仕事に加えて、多種類の注射薬の配合変化や相互作用の確認とともに、効果や副作用を医師が評価するためのあらゆる支援を行うことが主となります。

特に、手術が終了した患者さんには、手術前に一旦中止したお薬の再開の確認や、鎮痛薬をはじめとする厳密な投与量の調整が必要なお薬について、医師等の他の医療職と連携しながら医師が投与量を調節するための適切な支援を行っています。

当院の患者支援センターでは、入院が決定した患者さんに対し、入院前から多職種がチームとなって退院までを見据えた支援を行っています。ここでの薬剤師は、患者さんが入院前に使用しているお薬の確認を行います。循環器科への入院では、例えば心臓カテーテル検査や治療するために造影剤を使用する場合には、医師の指示のもと、ある種の糖尿病治療薬を検査や治療前後の一定期間中止します。これは造影剤により、ある種の糖尿病治療薬の副作用が出る可能性があるからです。

また、不整脈を治療するカテーテルアブレーションの際には、抗不整脈薬を服用していれば医師の指示により中止しますし、手術の際には抗血小板薬や抗凝固薬といったいわゆる「血をサラサラにするお薬」を服用していると止血が難しくなるので、院内の規定に従って医師の指示のもと中止します。このように、入院前に中止する必要があるお薬を確認し、患者さんに説明することで、スムーズに入院・治療が行えます。患者さんに安心して入院療養を行っていただくためにも、入院前に外来で正確にお薬が確認できるよう、来院時には使用中のお薬やお薬手帳などの持参をお願いします。

